編　修　趣　意　書
（教育基本法との対照表）

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-202	**高等学校**	**地理歴史科**	**世界史Ａ**	**全学年**
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46　帝国	**世Ａ -314**	**明解　世界史Ａ**		

1 編修の趣旨及び留意点

◎“新しい社会を生み出す創造力”の育成をめざして

現在の社会はグローバル化・情報化・少子高齢化など，様々な変化が急速に進んでおり，高校生が身につけるべき知識や教養も変化している。私たちは世界史Ａの学習を通して高校生が世界の歴史のなかで形成されてきた知恵や概念をしっかりと継承できるように配慮しつつ，現代世界の変化を踏まえた学習が可能になるよう意を注いだ。

その上で私たちは今回の教科書の編修にあたり，これからの社会を生きていく高校生に対し，“新しい社会を生み出す創造力”を身に付け，主体的に社会の形成に参画する人間になってほしいと考えた。将来において，社会に対する安心感を抱きながら平和な生活を持続していくためには，現代世界におけるさまざまな課題を理解し，さらにその課題を解決して，新しい社会に合わせたしくみやモデルをつくるために行動することが必要である。そのための“創造力”を育成することができるよう，大きく以下の三つの編修趣旨を設けた。

◎ おもしろい・わかりやすい・ためになる 高校生のための世界史Ａ教科書

❶　生徒の興味・関心を引き出す“おもしろい”教科書

○判型をワイドな **AB 判**にして，時代の特色を直感的につかむことができるよう，写真や地図などを大きく掲載した。

○「**人物コラム**」で，歴史上，様々な形で影響力をもった人物を数多く取り上げ，人となりや業績などを紹介した。

○特設ページ「**物を通して見る世界史**」やコラム「**物にも歴史あり**」で，生徒の身の回りにある様々な文物が世界に大きな影響を与えてきたことを紹介した。

○特設ページ「**クローズアップ 生活･文化！**」で，世界の様々な文化をその歴史的背景を交えながら紹介するとともに，衣食住などの当時の生活のようすも紹介し，その時代をより深く理解できるようにした。

❷　世界史の初学者でも理解しやすい“わかりやすい”教科書

○各章のはじめに「**章とびらページ**」を設置し，各章それぞれの展開を見通してから学習ができるようにした。

○各地域の歴史を学ぶ上で必要となる地理的特色を，各地域史のはじめに置かれる「**風土ページ**」にて詳しく紹介した。また，各所に大きな地図を掲載し，歴史が展開した場所を空間的に確認しながら学習していけるように工夫をした。

○特設ページ「**明解！近現代史**」を設置し，近現代史を①主導権争い，②革命の広がり，③戦争の変化という３つのテーマで見ていくことで，その大きな流れをつかみ，かつ深く学べるように工夫をした。

○世界史Ａが２単位であることを考慮し，近現代史の流れをスムーズに押さえられるよう配列に工夫をした。

○巻末に「**世界史 頻出用語解説**」を設置し，生徒が歴史用語をすぐに確認できるように工夫をした。

❸　社会に出てから役立つ“ためになる”教科書

○２部２章４節「**持続可能な社会をめざして**」において，①人間の権利と自由の尊重，②異文化理解，③環境保全，④共生，という四つの視点について，現在の具体的な事例とその歴史的な経緯を紹介し，「共生の社会」，「持続可能な社会」を築くための参考となるよう工夫をした。

○コラム「**未来へ活かす歴史**」を各所に設置し，上記の四つの視点を中心に，現在の様々な事象につながる歴史的な経緯を紹介し，その教訓を未来に生かせるように配慮をした。

2 編修の基本方針 （教育基本法第２条への対応）

第１号 幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養い，豊かな情操と道徳心を培うとともに，健やかな身体を養うこと

▶「幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養」うことについて，本書では，世界の歴史の大きな流れや変化をしっかり理解することと同時に，人権の保障や異文化理解など，世界の歴史のなかで形成されてきた知恵や概念を，継承していくべき教養の一つとして身に付けることが大切と捉えた。

① 各章で取り扱うそれぞれの時代の展開を見通してから学習ができるよう，各章のはじめに各時代の世界各地の流れを示した図や大きな地図を用意した「**章とびらページ**」を設置した。 →p. 6，60，96，148，188

② 幅広い知識と教養を身に付けるために，近現代を中心にページを配分しながらも，古代から現代までの世界史の流れが理解できるように心がけ，前近代の流れもしっかり把握できるよう工夫をした。
また，学びやすい配列となるよう，アジア史とヨーロッパ史をそれぞれまとめて扱うようにするなど，学習する地域の移動が少なくなるように心がけ，近現代史の流れをスムーズに理解できるようにした。

③ 近現代史の大きな流れをつかみ，かつ深く学べるようにするために，特設ページ「**明解！近現代史**」を設置し，近現代史を①世界の主導権争い，②革命の広がり，③戦争の変化という３つのテーマで紹介した。 →p.94，114，186

④ ２部２章４節「**持続可能な社会をめざして**」において，①人間の権利と自由の尊重，②異文化理解，③環境保全，④共生，という四つの視点を取り上げ，そこで，現在の事例とその歴史的な経緯を紹介することで，「共生の社会」，「持続可能な社会」について考えられるように工夫をした。 →p.218 ～ 222
また，コラム「**未来へ活かす歴史**」を各所に設置し，上記の四つの視点を中心に現在の様々な事象につながる歴史的な経緯を紹介し，その教訓を未来に生かせるように配慮をした。
→p.26，39，127，153，155，161，183，197，203，213 など

▶「豊かな情操と道徳心を培う」ことについて，本書では，他者の立場でものごとを考えたり，相手に共感したり，助け合ったりすることの大切さを実感できることが大切と捉えた。

① 当時の人々の証言や記録などをできるだけ多く取り上げ，その時代を生きた人々の立場で考え，共感できるように工夫をした。 → p.78，79，112，125，139，145，178，182，205，212 など

② 人々の日常の営みがわかるように，大きな写真や暮らしに関するコラムを用意した特設ページ「**クローズアップ 生活・文化！**」などで紹介し，臨場感をもって学習ができるよう工夫をした。
→ p.20，40，46，70，76，88，128，166

第２号 個人の価値を尊重して，その能力を伸ばし，創造性を培い，自主及び自律の精神を養うとともに，職業及び生活との関連を重視し，勤労を重んずる態度を養うこと

▶「個人の価値を尊重して，その能力を伸ばし，創造性を培い，自主及び自律の精神を養う」ことについて，本書では，まずは世界各地の歴史について興味を持ち，調べてみたいと思う気持ちをもつことが重要であると捉えた。

① 教科書の判型を **AB 判**にし，写真や地図を大きく掲載することで，生徒が興味を持ちやすくなるようにした。また

その際，比較したり，変化が読み解けるようにしたりすることで，生徒が時代の特徴や変化について具体的なイメージをもち，多面的・多角的に学習できるようにした。

② 特に通常ページの導入には，その見開きの内容をイメージしやすい写真・地図を設置し，「**ここに注目**」で資料を読み解く視点を示すことで，資料を読み解く力を育成し，より自主的に学習できるよう工夫をした。

③ 「**人物コラム**」を各所に設置し，各地の人々に様々な形で影響を与えた人物を数多く取り上げて人となりや業績などを紹介し，興味を持って学習ができるように工夫をした。

④ 特設ページ「**物を通して見る世界史**」やコラム「**物にも歴史あり**」を設置し，生徒の身の回りにある様々な文物が世界の歴史に大きな影響与えてきたことを紹介して，身近な物に関する歴史についても興味を持つことができるように工夫をした。 →p.54，59，65，108，113，133，136，168，など

⑤ 学習の最後に置かれた「**課題学習のページ**」では，２部で学習してきたことを踏まえ，現代社会の特徴や現代世界の課題など，自らが興味のあるテーマを設定し，追究・まとめ・発表する作業を設けた。 →p.223

▶「職業及び生活との関連を重視し，勤労を重んずる態度」について，本書では，世界をよくするために取り組んできた人々がいたことを知り，自らの将来と結び付けて考えることが重要であると捉えた。

① とくに現代において，世界平和や社会の改善のために貢献した人物をできるだけ取り上げるようにすることで，生徒の将来の参考になるよう工夫をした。 →p.162，171，179，191，205，210，218，222 など

第３号 正義と責任，男女の平等，自他の敬愛と協力を重んずるとともに，公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養うこと

▶「正義と責任，男女の平等，自他の敬愛と協力を重んずる」ことについて，本書では，過去の事例を通じて正義とは何かを考え，男女平等の実現に向けて行われてきた努力を理解することが大切であると捉えた。

① 宗教やイデオロギーの違いなど，立場によってそれぞれの「正義」があり，それが対立につながることもあること，一方で，人々は対立を望んでおらず，お互いの文化の違いを理解することで対立を避ける努力もなされてきたことについて，理解できるよう工夫をした。 →p.51，63，65，213 など

② 男女の平等について，過去における女性差別の歴史や女性の権利の獲得に関する歴史を紹介し，現在の状況と照らし合わせながら考えられるようにした。 →p.41，45，105，135，151，165，168 など

▶「公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養うこと」について，本書では，世界各地に浸透している自由と平等という思想が，どのように培われてきたのかを理解することが重要であると捉えた。

① 特設ページ「**明解！近現代史**」②革命の広がり において，現在，世界各地に浸透している自由と平等という思想は，革命運動や独立運動など，様々な経緯を経て獲得されてきたものであることを紹介し，その権利を認識し，維持していくことの大切さを考えられるように工夫をした。 →p.114

② p.216「**地球的課題と解決への努力**」では，地域格差や地域紛争といった問題を解決するために，国際連合をはじめ，政府開発援助 (ODA) や NGO・NPO といった組織などが努力していることを紹介した。 →p.216 など

③　２部２章４節「**持続可能な社会をめざして**」①人間の権利と自由の保障 において，フランスから送還されたロマの人々を事例としながら，人権について考えられるように工夫をした。　→p.219

第４号　生命を尊び，自然を大切にし，環境の保全に寄与する態度を養うこと

▶「生命を尊び，自然を大切にし，環境の保全に寄与する態度を養うこと」について，本書では，過去における人々と自然の関係のあり方やその変遷を知り，自然との共生を目指す態度を養うことと捉えた。

①　各地域史を学ぶはじめのページに「**風土ページ**」を設置し，これから学習する地域の自然環境やそれが歴史に与えた影響について考えられるようにした。　→p.10，24，28，32，42，56

また，コラム「**世界史へのいざない　自然環境と歴史**」を設置し，自然環境と人類が互いにどのような影響を与えてきたのかを紹介した。　→巻頭Ⅲ，p.10，24，28，32，42

②　コラム「**未来へ活かす歴史**」の中で，自然環境とのかかわりや環境保全の必要性に関する内容を取り上げた。また，２部２章４節「**持続可能な社会をめざして**」p.221 ③環境保全の必要性 において，アラル海の枯渇を事例としながら，自然環境との共生について考えられるように工夫をした。　→p.35，p.113 など

第５号　伝統と文化を尊重し，それらをはぐぐんできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと

▶「伝統と文化を尊重し，それらをはぐぐんできた我が国と郷土を愛する」ことについて，本書では，日本の歴史や文化が周辺諸国や欧米諸国の影響を受けながら，どのように形成されてきたのかを理解することで養えると捉えた。

①　特設ページ「**世界史へのいざない　日本列島の中の世界史**」を設置し，日本列島にみられる物・遺跡・技術などが世界とどのように結びついていたのかを，戦国～安土・桃山時代，明治時代，大正時代に絞って紹介した。また，中学校で学んできた知識をふまえ，日本の世界史上の位置づけがより理解できるように工夫をした。　→p.92，140，174

②　コラム「**世界史の中の日本**」を各所に設置し，日本と世界の関連を示すとともに，外国から日本はどのように捉えられていたのかがわかるように工夫をした。　→p.19，87，124，137 など

▶「他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度」について，本書では，過去における他国とのつながりについて理解するとともに，日本が経験してきた戦争に対して真摯に向き合ったうえで，多様な人々が共存する平和な社会を築くための知識と態度を育むことと捉えた。

①　特設ページ「**明解！近現代史**」③戦争の変化 において，近現代史における戦争の変化を紹介するとともに，平和な社会を築くための努力が各時代で行われてきたことを紹介し，戦争と平和について考えられるようにした。　→p.186

②　日本が経験してきた日中戦争・太平洋戦争について，当時の状況や中国・アメリカの動きも記述し，戦争について真摯に向き合い，平和について考えていけるようにした。　→p.180 ～ 185

3 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1部 **世界の一体化と日本** 1章　前近代の諸文明	・幅広い知識と教養を身に付けるために，古代から現代までの世界史の流れが理解できるように心がけ，前近代の流れもしっかり押さえられるよう工夫をした。（第1号） ・各地域史を学ぶはじめのページに「風土ページ」を設置し，各地域の地形や気候などの地理的特色を押さえながら， これから学習する地域の自然環境に基づく背景について考えられるようにした。（第4号）	p. 8-59 p. 10-11，24-25，28-29，32-33，42-43，56
2章　一体化に向かう世界	・学びやすい配列となるよう，繁栄するアジアの様子を記述したのちに，ヨーロッパを続けて記述するようにし，学習する地域の移動が少なくなるように心がけた。(第1号) ・特設ページ「明解！近現代史」①世界の主導権争い において，世界の主導権をめぐるヨーロッパ諸国やアメリカ，日本の動きを端的に紹介し，近現代史の流れを把握しやすいように工夫をした。(第1号)	p. 62-91 p. 94-95
3章　欧米の工業化とアジア諸国の動揺	・学びやすい配列となるよう，市民革命・産業革命を経験するヨーロッパ・アメリカを初めに記述したのちに，その影響を受けていくアジアを記述するようにし，学習する地域の移動が少なくなるように心がけた。(第1号) ・特設ページ「明解！近現代史」②革命の広がり において，現在，世界各地に浸透している自由と平等という思想は，革命運動や独立運動など，様々な経緯を経て獲得されてきたものであることを紹介し，その権利を認識し，維持していくことの大切さを考えられるように工夫をした。(第3号)	p. 98-147 p. 114-115
2部 **地球社会と日本** 1章　現代社会の芽生えと世界大戦	・男女の平等について，過去における女性差別の歴史や女性の権利の獲得に関する歴史を紹介し，現在の状況と照らし合わせながら考えられるようにした。(第3号) ・日本が経験してきた日中戦争・太平洋戦争について，当時の状況や中国・アメリカの動きも記述し，戦争について真摯に向き合い，平和について考えられようにした。(第5号) ・特設ページ「明解！近現代史」③戦争の変化 において，近現代史における戦争の変化を紹介するとともに，平和な社会を築くための努力が各時代で行われてきたことも紹介し，戦争と平和について考えられるようにした。(第5号)	p. 151，165，168-169 など p. 180-185 p. 186-187
2章　冷戦から地球社会へ	・宗教やイデオロギーの違いなど，立場によってそれぞれの「正義」があり，それが対立につながることもあること，一方で，人々は対立を望んでおらず，お互いの文化の違いを理解することで対立を避ける努力もなされてきたことについて，理解できるよう工夫をした。(第3号) ・第2部2章4節「持続可能な社会をめざして」において，①人間の権利と自由の尊重，②異文化理解，③環境保全，④共生，という4つの視点について，現在の事例とその歴史的な経緯を紹介し，「共生の社会」，「持続可能な社会」を築くための参考となるよう工夫をした。(第1号) ・学習の最後に置かれた「課題学習のページ」では，第2部で学習してきたことを踏まえ，現代社会の特徴や現代世界の課題など，自らが興味のあるテーマを設定し，追究・まとめ・発表する作業を設けた。(第2号)	p. 190-217 p. 218-222 p. 223

4 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

❶すべての生徒が読みやすい表現の工夫

○見開きにおけるデザインや，グラフ・地図といった資料において，色覚に特性のある生徒でも識別できる色を使うよう配慮した。極力模様など入れず，配色のみで色が区別できるようにした。また，折れ線グラフなどは形をはっきりさせるため，線を太くするなどの工夫も行ったことで，すべての生徒が読み取りやすい表現にもなっている。

○本文などでは，文字をはっきりと読み取ることができるユニバーサルデザインフォント (UD フォント) を使用した。

❷環境に優しい素材と堅牢な造本

○紙には古紙を入れるともに，環境に優しいフレッシュパルプを使用している。一方で写真がきれいに見えるよう，白くて裏うつりが少ないものを使用している。

○インクには，再生産が可能な植物由来の油などを原料とした植物油インキを使用している。

○使用期間の間，壊れることがないよう，堅牢なつくりにしている。

編　修　趣　意　書
（学習指導要領との対照表，配当授業時数表）

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-202	**高等学校**	**地理歴史科**	**世界史Ａ**	**全学年**
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46　帝国	**世Ａ -314**	**明解　世界史Ａ**		

1 編修上特に意を用いた点や特色

おもしろい・わかりやすい・ためになる 高校生のための世界史Ａ教科書

現代の社会はどのような歴史の流れのなかにあるのかを改めて検討し，高校生が将来社会に出たときに必要となる知識・教養を明確に示すことで，世界史を通して「**共生の社会**」，「**持続可能な社会**」を考えることができる生徒の育成をめざした。またその際，興味を持って学習に取り組めるように，平易かつわかりやすい記述を心がけた。

ー本書の特色ー

特色１　生徒の興味・関心を引き出す“おもしろい”教科書
特色２　世界史の初学者でも理解しやすい“わかりやすい”教科書
特色３　社会に出てから役立つ“ためになる”教科書

特色１　生徒の興味・関心を引き出す“おもしろい”教科書

①　ワイドなＡＢ判を活かし，時代の変化を直感的につかむことができる大きな写真や地図

教科書の判型をワイドな AB 判にすることにより，写真や地図を大きく掲載し，生徒が興味を持ちやすくなるようにした。またその際，比較したり，変化が読み解けるようにしたりできるように紙面構成を工夫し，生徒が時代の特徴や変化について具体的なイメージをもちながら，多面的・多角的に学習できるようにした。

特に通常ページの導入には，その見開きの内容をイメージしやすい写真・地図を導入図版として置き，「ここに注目」で資料を読み解く視点を示すことで，資料を読み解く力を育成し，より主体的に学習することができるよう工夫をした。

②　歴史上，様々な形で影響力をもった人物を数多く紹介した「人物コラム」

世界史に様々な形で影響を与えた人物の，業績や人となりをコラムで詳しく紹介するとことで，生徒が歴史に興味や関心を持ちやすくなるようにした。またその内容では，本文では語られないより深めた内容や別の観点などを紹介するように心がけた。　→ p.13，21，45，74，86，101，105 など

③　生徒の身の回りにある様々な文物が世界に大きな影響を与えてきたことを紹介した，特設ページ「物を通して見る世界史」，コラム「物にも歴史あり」

各時代を象徴する「物」をテーマにした特設ページ「物を通して見る世界史」を計６か所，コラム「物にも歴史あり」を計 16 か所，設置した。生徒の身の回りにある物を取り上げることで興味や関心を呼び起こし，人々がどのような願いをもって歴史を動かしてきたかを具体的にイメージできるようにした。

→　特設ページ p.16，54，80，108，168，200　　コラム p.59，65，113，133，136 など

④　様々な文化や当時の生活の様子を紹介した特設ページ「クローズアップ 生活・文化！」

特設ページ「クローズアップ 生活・文化！」では，上段に当時の様子がうかがえる大きな写真と食事に関するコラムを設置し，生活の様子を紹介。下段には当時のおもな文化を紹介して，生活・文化を視覚的にとらえられる構成にした。

→ p.20，40，46，70，76，88，128，166

⑤　巻末Ⅱに設置した「**世界史に関連する映画を見てみよう！**」

巻末Ⅱでは，世界史に関連する映画を紹介し，世界史への興味をより高めることができるように工夫をした。

特色２　世界史の初学者でも理解しやすい“わかりやすい”教科書

①　各章それぞれの展開を見通してから学習ができる，各章のはじめの「**章とびらページ**」

各章で取り扱うそれぞれの時代の展開を先に見通してから学習ができるよう，各章のはじめに流れ図や大きな地図を用意した「章とびらページ」を設置した。またその周囲には，ユーラシア大陸や世界各地で行われた交流や，世界の一体化を示す資料を配置し，当時の世界全体の動きをとらえやすくした。　→p. 6，60，96，148，188

②　各地域の歴史を学ぶ上で必要となる地理的特色を詳しく紹介した，各地域史のはじめの「**風土ページ**」

各地域史を学ぶはじめのページに「風土ページ」を設置し，これから学習する地域の自然環境やそれが歴史に与えた影響について考えられるようにした。　→p.10，24，28，32，42，56

また，巻頭Ⅲとこの「風土ページ」には，コラム「世界史へのいざない 自然環境と歴史」を設置し，自然環境と人類がたがいにどのような影響を与えてきたのかを紹介した。　→巻頭Ⅲ，p.10，24，28，32，42

③　近現代史の大きな流れをつかみ，かつ深く学べる特設ページ「**明解！近現代史**」

特設ページ「明解！近現代史」を設置し，近現代史を①世界の主導権争い，②革命の広がり，③戦争の変化という三つのテーマで見ていくことで，近現代史の大きな流れをつかみ，かつ深く学べるようにした。

p.94 ①世界の主導権争い では，世界の主導権をめぐるヨーロッパ諸国やアメリカ，日本の動きを端的に紹介し，近現代史の流れを把握しやすいように工夫をした。

p.114 ②革命の広がり では，現在，世界各地に浸透している自由と平等という思想は，革命運動や独立運動など，様々な経緯を経て獲得されてきたものであることを紹介し，その権利を認識し，維持していくことの大切さを考えられるように工夫をした。

p.186 ③戦争の変化 において，近現代史における戦争の変化を紹介するとともに，平和な社会を築くための努力が各時代で行われてきたことを紹介し，戦争と平和について考えられるようにした。

④　近現代史の流れがスムーズに押さえられる**配列**

２単位で時間数が限られている世界史Ａでは，詳しく学習するより，近現代史を中心としながらグローバル社会で必要となる知識や教養をしっかりと身につけることが求められる。そこで，生徒が近現代史の流れをスムーズに理解することができるよう，配列に工夫をした。

１部１章では，近現代史にいたるまでの古代からの流れについても端的に理解できるように，前近代についてもポイントを絞りつつしっかりと学習できるようにした。

１部２章では，繁栄するアジアの様子を記述したのちに，ヨーロッパの歴史を続けて記述するようにし，学習する地域の移動が少なくなるように心がけた。

１部３章では，市民革命・産業革命を経験するヨーロッパ・アメリカを初めに記述したのちに，その影響を受けていくアジアを記述するようにし，学習する地域の移動が少なくなるように心がけた。

２部１章では，欧米諸国の動きを中心に二つの世界大戦にいたるまでの経緯を丁寧に記述し，かつ日本が経験してきた日中戦争・太平洋戦争について，当時の状況や中国・アメリカの動きも記述し，戦争について真摯に向き合い，平和について考えていけるようにした。

２部２章では，戦後を冷戦期 (1945 ～ 60 年代)，冷戦終結期 (1970 ～ 80 年代)，グローバル化の時代 (1990 年代～) の三つの時代にわけ，時代ごとに各地域の動きを取りまとめ，戦後の動きもしっかり理解できるように工夫をした。

④　世界遺産が確認できる「**世界遺産マーク**」

世界文化遺産となっている建造物には，「世界遺産マーク」を設置して，それがわかるようにした。

⑤　生徒が歴史用語をすぐに確認できる，巻末Ⅰの「**世界史　頻出用語解説**」を設置

世界史を学習していると，生徒が聞きなれない歴史用語が出てくることがある。そうした部分で世界史の学習につまずくことがないように，巻末Ⅰに「世界史 頻出用語解説」を設置し，わからない用語が出てきたときにすぐに確認できるようにした。また，該当する用語が出てきたときには，巻末Ⅰを参照させるマークを設置するようにした。

特色３　社会に出てから役立つ“ためになる”教科書

①　「共生の社会」，「持続可能な社会」について考える２部２章４節「**持続可能な社会をめざして**」

２部２章４節「持続可能な社会をめざして」において，①人間の権利と自由の保障，②異文化理解，③環境保全，④共生，という四つの視点で，現在の事例とその歴史的な経緯を紹介し，「共生の社会」，「持続可能な社会」を築くための参考となるよう工夫をした。　→p.218 ～ 222

②　未来を考えるうえで特に参考にして欲しい出来事について紹介したコラム「**未来へ活かす歴史**」

コラム「未来へ活かす歴史」を各所に設置し，上記の四つの視点を中心に現在の様々な事象につながる歴史的な経緯を紹介し，その教訓を未来に生かせるように配慮をした。

→p.26，39，127，153，155，161，183，197，203，213 など

③　異文化理解に必要となる「**宗教・思想コラム**」

グローバル社会のなかでは異文化理解が重要となるが，その基礎的な知識となる宗教や思想について，コラムで紹介した。　→p.13、27，35，37，48

④　世界史と日本史との関連がわかる特設ページ「**日本列島の中の世界史**」とコラム「**世界史の中の日本**」

特設ページ「世界史へのいざない 日本列島の中の世界史」を設置し，日本列島にみられる物・遺跡・技術などが世界とどのように結びついていたのかを，戦国～安土・桃山時代，明治時代，大正時代に絞って紹介した。また，中学校で学んできた知識をふまえ，日本の世界史上の位置づけがより理解できるように工夫をした。　→p.92，140，174

さらに，コラム「世界史の中の日本」を各所に設置し，日本と世界の関連を示すとともに，外国から日本はどのように捉えられていたのかがわかるように工夫をした。　→p.19，87，124，137 など

その他　学習をサポートするための工夫

①　扱っている場所と時代を確認できる**インデックス**

世界史を学習する際には，どこの場所のいつの時代を学習しているのかが重要となる。そこで見開きで扱っている場所と時代がすぐに確認できるよう，見開き左ページの左端には東アジア，南・東南アジア，西アジア，ヨーロッパ，アメリカ，アフリカのどこの地域を扱っているかが確認できる地域インデックスを，見開き右ページの右端には巻頭Ⅲと巻末Ⅱにおかれた年表「日本の歴史」と連動した時代インデックスを設置した。

②　関連するページがすぐに確認できる「**前のできごと**」と「**次のできごと**」

開いているページの前のできごとや次のできごとを確認したいとき，一つページをめくってもそれが記述されていない場合がある。そこで，記述が連続していない場合，前後の記述がどこにあるかすぐにわかるように，ページ下のノンブルの横に「前のできごと」と「次のできごと」を設置し，地域ごとに該当するページを紹介した。

③　いつでも場所が確認できる巻頭Ⅰ～Ⅱ・Ⅲの世界地図など，**各所に置かれた地図**

開きやすいページである巻頭Ⅰには，国で色分けをした世界地図を設置し，現在の国々がどこにあるのか，すぐに確認できるようにした。

⑤　充実した巻末の「**人物さくいん**」,「**事項さくいん**」

AB 判というワイドな紙面を活かして，さくいんを充実させた。さくいんは「人物さくいん」と「事項さくいん」にわけることで，より使いやすくなるようにした。また，人物・事項について通常ページの本文において太字で掲載されている場合には，該当ページを太字にして示し，より使いやすくした。　→ p.228 ～ 232

2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	箇所	構成・内容の特色	配当時数
世界史へのいざない コラム　自然環境と歴史 特集ページ　日本列島の中の世界史	（１） ア　自然環境と歴史 イ　日本列島の中の世界の歴史	巻頭Ⅲ p.10,24,28,32,42 p.92-93、140-141,174-175	・巻頭Ⅲおよび，各地域史のはじめに置かれた「風土ページ」にコラム「世界史へのいざない 自然環境と歴史」を設置し，自然環境と人類が互いにどのような影響を与えてきたのかを作業を交えながら紹介した。 ・特設ページ「世界史へのいざない 日本列島の中の世界史」を設置し，日本列島にみられる物・遺跡・技術などが世界とどのように結びついていたのかを，紹介した。また，中学校で学んできた知識をふまえ，日本の世界史上の位置づけがより理解しやすいように工夫をした。	**2** 1 1
１部　世界の一体化と日本 **１章　前近代の諸文明** 序節　人類の始まり １節　東アジアの文明 ２節　南アジアの文明 ３節　東南アジアの文明 ４節　西アジア・北アフリカの文明 ５節　ヨーロッパの文明 ６節　南北アメリカの文明 ７節　ユーラシアの交流圏	（２） ア　ユーラシアの諸文明	p.6-59	・各文明の学習に入る前にその地域の風土と人々の暮らしが確認できる，風土のページを設置した。 ・東南アジアを南アジアと区別し，独自の地域として取り扱った (p.28 ～ 31)。 ・南北アメリカも独自の地域として設け，ヨーロッパの大航海時代後のアメリカだけではなく，独自性をもった文明があったことが意識できるように工夫をした (p.56 ～ 57)。 ・ヨーロッパ史を充実させ，キリスト教の成立と東西ヨーロッパの分裂を丁寧に記述するとともに，現在につながる国家がいつ頃形成されてきたのかがわかるようにした。 ・７節「ユーラシアの交流圏」では，大きな地図と本文で，東西交流路の形成やその変化がわかるようにした (p.58 ～ 59)。	**6** 0.5 1 0.5 0.5 1 1 0.5 1
２章　一体化に向かう世界 １節　繁栄するアジア ２節　大航海時代と新たな国家の形成	（２） イ　結び付く世界と近世の日本	p.60-95	・「ヨーロッパがアジアの繁栄に憧れて，大航海時代が始まる」という流れを明確にするため，モンゴル帝国解体後から始まるアジアの繁栄を先に紹介し，それに導かれてヨーロッパの「ルネサンス・大航海時代」が始まるという流れとした。また学習する地域が頻繁に変化してしまうと生徒の理解が困難になるため，アジアとヨーロッパの歴史をそれぞまとめて記述するようにし，学習する地域の移動が少なくなるように心がけた。 ・学習指導要領をふまえ，近世の日本について記述した通常ページ「交易で結びつく東アジア諸国」を設置し，近世の日本と近隣諸国の関係の紹介を充実させた (p.72 ～ 73)。 ・近世ヨーロッパ史の記述を補強し，主権国家体制に基づいた各国の発展や，人権思想形成の流れが理解できるようにした (p.82 ～ 87)。 ・アジアやアメリカに進出するヨーロッパの動きをしっかりと取り扱い，アジアとヨーロッパの力関係が逆転していく様子をより深く理解できるようにした (p.90 ～ 91)。 ・特設ページ「明解！近現代史」①世界の主導権争い において，世界の主導権をめぐるヨーロッパ諸国やアメリカ，日本の動きを端的に紹介し，近現代史の流れを把握しやすいように工夫をした。	**11** 5 6

3章　欧米の工業化と アジア諸国の動揺 1節　ヨーロッパとアメリカの諸革命 2節　自由主義・ナショナリズムの進展 3節　アジア諸国の動揺 4節　東アジアの大変動	（2） ウ　ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 エ　アジア諸国の変貌と近代の日本	p.96-147	・生徒が理解をしやすいように，まずアメリカ独立戦争・フランス革命など，市民革命とその広がりを先にまとめて取り扱い，イギリス産業革命はその後に紹介するようにした。 ・特設ページ「明解！近現代史」②革命の広がり において，現在世界各地に浸透している自由と平等という思想は，革命運動や独立運動など様々な経緯を経て獲得されてきたものであることを紹介し，その権利を認識し維持していくことの大切さを考えられるように工夫をした。 ・アジア諸国に列強が進出していく様子を丁寧に記述するとともに，日本の世界史における位置づけを明確に示し，なぜアジアの中で日本だけが植民地化をまぬかれたのかについて考えられるようにした。	**21** 7 6 4 4
2部　地球社会と日本 **1章　現代社会の芽生えと 世界大戦** 1節　現在につながる社会の形成 2節　第一次世界大戦がもたらしたもの 3節　“民族自決”を求めて 4節　経済危機から第二次世界大戦へ	（3） ア　急変する人類社会 イ　世界戦争と平和	p.148-187	・現代社会の基礎となる大衆社会の成立を２部のはじめで取り扱い，義務教育の普及や選挙権の拡大によって大衆が主体となる社会が形成され，その大衆を対象とした文化も形成されるようになったことなどが深く理解できるようにした (p.150 ～ 151)。 ・戦間期の記述を充実させ，第一次世界大戦で大きな被害を経験したにもかかわらず第二次世界大戦を引き起こしてしまった理由について，しっかり学習できるようにした。 ・日本が経験してきた日中戦争・太平洋戦争について，当時の状況や中国・アメリカの動きを丁寧に記述し，戦争について真摯に向き合い，平和について考えていけるようにした。 ・特設ページ「明解！近現代史」③戦争の変化 において，近現代史における戦争の変化を紹介するとともに，平和な社会を築くための努力が各時代で行われてきたことも紹介し，戦争と平和について考えられる　ようにした。	**15** 3 5 2 5
2章　冷戦から地球社会へ 1節　冷たい戦争の時代 2節　冷戦終結への道のり 3節　地球社会への歩み 4節　持続可能な社会をめざして	（3） ウ　三つの世界と日本の動向 エ　地球社会への歩みと課題 オ　持続可能な社会への展望	p.188-223	・戦後を冷戦期 (1945 ～ 60 年代)，冷戦終結期 (1970 ～ 80 年代)，グローバル化の時代 (1990 年代～) の三つの時代にわけ，時代ごとに各地域の動きを取りまとめ，戦後の動きもしっかり理解できるように工夫をした。 ・1970 ～ 80 年代のアジアの動きを丁寧に取り扱い，“ 東アジアの奇跡 ” と呼ばれる経済発展や，市場経済を取り入れていく社会主義諸国の動きなどを理解できるようにした (p.206 ～ 207)。 ・世界史学習の最後の節を，課題学習へつなげるためのページとして位置づけ，①人間の権利と自由の尊重，②異文化理解，③環境保全，という三つの視点をふまえ，現在の事例と歴史的な経緯を紹介し，四つめの視点である「共生の社会」,「持続可能な社会」を築くための参考となるように工夫をした。	**15** 6 3 4 2
				計 70 時間

・通常ページは原則２ページ (１見開き) １時間として計算した。ただし，１部１章については，ユーラシアの諸文明の特質と海・陸における交流を概観することが目的であるため，６時間でこれらの内容を扱うこととした。(計 70 時間)。

・世界史へのいざないは，コラム「自然環境と歴史」５種類と，特集ページ「日本列島の中の世界史」３種類からそれぞれ一つずつ選択するものとし，１時間ずつ，計２時間分を配当した。

・２部２章４節「持続可能な社会をめざして」については，課題学習のオリエンテーションに１時間，発表に１時間で，計２時間を配当した。

・特集ページ「明解！近現代史」,「クローズアップ 生活・文化！」,「物を通して見る世界史」は配当時間数に含めない。